

「ネコの不妊手術徹底を」 市も無料チケット配布

「ネコの不妊手術はかわいそう、という人もいますが、毎年生まれる子ネコの9割は死んでしまいます。どちらがかわいそうですか」と、問いかけるのは、ねこ猫ネコの会(以下「ネコの会」、飯能市稲荷町代表の菅良枝さん(53))。ネコの会は平成26年に、埼玉県動物支援センターに登録された譲渡認定団体。毎月市内で保護猫の譲渡会を開催し、屋外で死亡する野良ネコをゼロにする活動を展開している。3月の定例市議会でも野口和彦議員(NEXTはん)は、地域猫対策等について市に一般質問を行い、市も「飼いのない猫に関するパンフレットを作成し、広報にも力を入れ周知していく」と約束。市はこい、2か月でパンフレットを作成し市広報に折込み、ネコの不妊手術には無料のチケットがあることを市民に周知することを予定している。

「ネコの会」が譲渡会開催

ネコの会は、飯能市を中心に活動地域を、飼いのないネコを減らすための地域猫活動「不妊去勢手術」(TNR)と、野良ネコが生んだ子ネコの里親探しをサポートが主な活動。ネコの一時期預かりボランティアなど役割を分担、実働会員は17人。年間約80〜90匹のネコを、新たに安心して暮らせる家庭に送り出している。1匹1匹の健康状態などを公開し、ネコ引き取り希望者に27項目にも及ぶ詳細なアンケートを行い慎重なマッチングを実施しているため、体が不自由でも、病弱でも譲渡先を見つけ、後から破談になったのは、引き取り先が、重症のネコアレルギーと判明した事例も含め2例だけ、と菅さんは言う。ネコの会が譲渡会で扱っているネコは、不妊治療を済ませ、飼いのない猫に増えすぎた子ネコ、飼いが飼えなくなったネコ、野良ネコから、破談になったのは、引き取り先が、重症のネコアレルギーと判明した事例も含め2例だけ、と菅さんは言う。

子ネコの9割が死亡

コ。そのネコの入手先は、処分が回される可能性があり、県の動物支援センター(熊谷)等から連絡があったネコと、人間・飯能・日高市内の住民から相談が寄せられたネコ。一般市民から相談を受けたネコは、原則ワクチン接種等の医療処置をしても、手術を拒否するネコが少なくない。菅さんは、現住所の稲荷町に、菅家の4女として昭和40年に生まれ、飯能第一小、西中を卒業。幼少園とネコの出合いは、幼稚園のとき、近所の茶畑から白黒のネコを拾ったこと。菅さんは、家族の大半がネコ好きだったためネコは常に家族の一員で、最大10匹飼っていたことも、と振り返る。しかし、増え過ぎてはいたくない、という両親の方針があり、菅家ではエサはしきりにやって来る野良にも不妊手術をしてもらおうと、手術は当たり前。菅さんは、東京・新宿に転居。菅さんは、アスファルトで子ネコが野垂れ死にしているのを見て、死に別れを告げたいという思いで、10年頃から捕獲器も自作し、たった一人から保護活動に着手。その後、不妊手術料を出していただく事業主、手術料を大幅に安くしてくれた獣医、後にNPO法人「ねこすけ」を立ち上げた人々と知り合い協力し、約100匹の手術を実施した、と言った。



菅さん宅で暮らすネコたち

9年前、飯能市に戻ったときは、住んでいた新宿河田町界隈では野良を見かけることはなくなっていた。菅さんは、動物指導センター(熊谷)などで殺処分されるネコがかわいそうである、ネコを多頭飼育化、近親交配の進行で障害を持つネコが多産化、野良ネコへの安易なエサやりにより不幸なネコの大発生などが社会問題化している。「ネコに餌をやることは動物愛護ですが、餌をやったら不妊手術は義務です。手もいりますが、殺処分されるネコと、どちらがかわいそうですか」と、菅さんは、問いかけると、菅さんは、公益財団法人どうぶつ基金は、殺処分ゼロを目指し、



譲渡会参加のルーク(右)と翔。仲が良く2匹一緒の譲渡を希望

市民美術展の作品募集 アート愛する市民の発表の場

飯能市・同教育委員会主催、飯能市文化協会協賛、飯能市民美術展実行委員会主催の第58回「飯能市民美術展」が7月25日から同市民会館で開催されることに伴い、6月19日までの期間で作品募集が行われている。飯能市民美術展は、市民の芸術活動を促進するとともに、創作した美術作品の発表の場を提供することで、市民文化の向上を図ることを目的に毎年開催されている。市の文化活動を支える歴史と伝統の展覧会。今年は7月25日から同8

日までの間で、市民会館地下展示室で開かれる。募集作品は「絵画」「書」「写真」「彫塑・工芸」の4部門。「彫塑・工芸」の部門は、同展に出品できる人は飯能市在住、在勤、在学しているか、または市内のサークルなどで活動している15歳以上の人。部門問わず1人1点出品できる。出品料は無料。出品希望者は、所定の出品申込書に住所、氏名、出品部門、題名、仕上がり寸法などを記入し、6月19日までに市生涯学習課、または各市区行政センター窓口へ提出する。会場への作品搬入は、7月24日午後2時から3時半までの間、会場へ受け付けを済ませ、6月19日までに出品できない作品は、展示できないので注意。作品の搬出は同28日。部門別作品規格は次のとおり。

【絵画】切り絵、貼り絵含む
①額の外寸1メートル以内(75センチ以上のものについては、額縁の幅5センチ以内の仮縁とする)②額内はガラスの使用不可。アクリル板は可③額裏には紐を

つ、吊り下げられるようにする。④写真・組写真とも仕上がり寸法幅1メートル以内⑤壁面作品は縦横高70センチ以内。ただし、縦横15センチ×15センチに満たない場合は台座等をつけ、ケースに入れない。⑥工芸・木工、竹細工、金工、紙工、陶芸、ガラス、プラスチック、人形、七宝、染色、織物、刺繍、漆芸、皮工)⑦壁面作品は仕上がり寸法幅1メートル以内⑧立体作品は縦横高70センチ×70センチ×180センチ以内。ただし、縦横15センチ×15センチに満たない場合は台座等をつけ、ケースに入れない。⑨写真・組写真とも仕上がり寸法幅1メートル以内⑩壁面作品は縦横高70センチ以内。ただし、縦横15センチ×15センチに満たない場合は台座等をつけ、ケースに入れない。⑪写真・組写真とも仕上がり寸法幅1メートル以内⑫壁面作品は縦横高70センチ以内。ただし、縦横15センチ×15センチに満たない場合は台座等をつけ、ケースに入れない。

日までの間で、市民会館地下展示室で開かれる。募集作品は「絵画」「書」「写真」「彫塑・工芸」の4部門。「彫塑・工芸」の部門は、同展に出品できる人は飯能市在住、在勤、在学しているか、または市内のサークルなどで活動している15歳以上の人。部門問わず1人1点出品できる。出品料は無料。出品希望者は、所定の出品申込書に住所、氏名、出品部門、題名、仕上がり寸法などを記入し、6月19日までに市生涯学習課、または各市区行政センター窓口へ提出する。会場への作品搬入は、7月24日午後2時から3時半までの間、会場へ受け付けを済ませ、6月19日までに出品できない作品は、展示できないので注意。作品の搬出は同28日。部門別作品規格は次のとおり。

つ、吊り下げられるようにする。④写真・組写真とも仕上がり寸法幅1メートル以内⑤壁面作品は縦横高70センチ以内。ただし、縦横15センチ×15センチに満たない場合は台座等をつけ、ケースに入れない。⑥工芸・木工、竹細工、金工、紙工、陶芸、ガラス、プラスチック、人形、七宝、染色、織物、刺繍、漆芸、皮工)⑦壁面作品は仕上がり寸法幅1メートル以内⑧立体作品は縦横高70センチ×70センチ×180センチ以内。ただし、縦横15センチ×15センチに満たない場合は台座等をつけ、ケースに入れない。⑨写真・組写真とも仕上がり寸法幅1メートル以内⑩壁面作品は縦横高70センチ以内。ただし、縦横15センチ×15センチに満たない場合は台座等をつけ、ケースに入れない。⑪写真・組写真とも仕上がり寸法幅1メートル以内⑫壁面作品は縦横高70センチ以内。ただし、縦横15センチ×15センチに満たない場合は台座等をつけ、ケースに入れない。

日和田山で下草刈りや清掃 環境ボランティアが会員募集

ボランティアとして毎月、日和田山の市有地の手入れを行っている「市民の日和田山環境ボランティア」は、一緒に活動する会員を募集している。市は、市民や企業、団体などから寄せられた「緑の

品は作品として認めない▽出品作品が複数で1セットの場合、必ず台座等をつけること。問い合わせは、飯能市教育委員会生涯学習スポーツ部生涯学習課973・3681へ。

活動日は毎月第3土曜日。集合場所は日和田山登山口あずまや付近。集合時間は3月10日は午前8時、11月は午前9時、2月は午前9時、3月は午前9時。作業の内容は刈草、雑草の除去、ミツバツツジ周辺の草刈り、落ち葉

清掃、枯損木の伐採、ハイキング道の補修など。募集するのは、活動の趣旨を理解し、環境保全や自然保護に関心がある人。入会希望者、問い合わせは日高市環境課生活環境担当989・2111へ。



今年3月に行われたミツバツツジの植樹会

日高市武蔵台公民館は、大相撲幕内格行司の木村元基さん(湊屋所蔵)を講師に招いて「相撲文字」をテーマとした講座を開催しました。相撲文字とは、相撲の用語や技名を、6月6日午後1時半から同3時半まで実施する。また、腹話術による特別出演として松本勇さんとサンガ君が登場する。現役行司である木村さんが参加者たちの目の前で相撲文字の実演や大相撲についてのよもやま話を聞く

文化俳壇・歌壇・柳壇投句先は次のとおりです。

官製はがきの裏面に投句(5句)、住所、氏名(ペンネーム)、電話番号を明記。はがきは1人1枚。毎月15日締め切り。

文化俳壇投句先
〒357-0035 飯能市柳町12-10
文化俳壇事務局・文化新聞社(TEL973-2525)

文化柳壇投句先
〒357-0044 飯能市川寺169-10
文化柳壇事務局・内田雪彦(TEL972-6380)

文化歌壇投句先
〒357-0044 飯能市川寺490-1
文化歌壇事務局・浅見美紗子(TEL972-7588)

地域の皆様とともに
—1950年創刊の文化新聞—

地域の皆様は身近な生活文化の情報を届けたい。そうした思いから、文化新聞は1950年(昭和25年)に創刊しました。これからも文字と情報で地域と人との絆を築いていきたいと思います。ニュースになりそうな地域の話題や写真などがあり、また、ご連絡ください。ご購読についてのご質問、お問い合わせ、文化新聞単独のご購読についてもお気軽にご相談ください。

お問い合わせは (株)文化新聞社
TEL 973-2525 FAX 974-3379
公式サイトは「文化新聞」で検索
投稿メールは toukou@bunkashinbu.co.jp

安心の 自費出版
地元密着でお客様第一主義。初めの方でもお声がけいたします。長年思い続けていたあなたの夢を、私たちが手助けいたします。

TEL 042-973-2525
info@bunkashinbu.co.jp

大切な人を見送る時
ご縁のあった多くの方にお知らせを

故人となられた方には生前、様々なご縁があり、多くの皆様と親交を深められていたことでしょう。大切な人とのお別れの場をより多くの方々へお伝えし、お揃いでお見送りいただくためにも、本紙の会葬広告をぜひ、お役立てください。

お問い合わせは、担当の葬儀社または文化新聞社編集部へ。

(株)文化新聞社 TEL 042-973-2525 FAX 042-974-3379

会葬広告のご案内
本紙の会葬広告はご案内と御礼の2回掲載(1回のみも可)
電話・ファクシミリ等でスピーディーに対応します。